



星川だより

熊谷空襲を忘れない市民の会 会報



熊谷に残る戦争などの
加害の遺跡

嶋田道雄



(東武熊谷線利根川橋脚 熊谷デジタルミュージアムから)

星溪園に西郷隆盛とその弟、従道を招いての宴会の様子を齋藤紫石・本名茂八(六代目熊谷町長、三代目熊谷市長)が史実として記した「埼玉の笑ひ」(進化論に抗議した田島玉蔵)の中に出てきます。韓国を侵略する征韓論を主張していた西郷隆盛はこの石の存在を知っていたのでしょうか。星溪園の袖振石・天柱石は、豊臣秀吉の野望から朝鮮侵略した文祿の役(1592~93年)で加藤清正が朝鮮から珍石として略奪し秀吉

に献上した石です。後に忍藩が譲り受け、時を経て星溪園を明治初年に造った竹井澹如の手に渡ったものです。この石は戦争などの加害の遺跡と言えます。この石以外にも加害の遺跡は熊谷の身近なところにも存在します。



(星溪園袖振石)

二月十八日、依頼されて「熊谷での朝鮮人への加害の歴史」というテーマで三十名ほどの参加者を前に講演しました。取り上げたのは朝鮮人強制連行強制労働(利根川架橋建設)と関東大震災朝鮮人虐殺熊谷事件です。このなかで加害の遺跡として二つ紹介しました。

昭和十七年初め、東武鉄道への軍の強い要望から建設されたのが東武熊谷線です。目的は群馬県大泉町の中島飛行機小泉製作所(海軍機組立)に機材や労働者の輸送用でした。鹿島組が請け負った熊谷・妻沼間十・一キロの一期工事は約一年間で完成し、妻沼から小泉までの利根川を渡る二期工事は昭和十九年夏から始まりましたが、二十九基のうち完成した二十五基の橋脚(コンクリート製)を残して敗戦となり、小泉まで線路は繋がりませんでした。三年間ほど歩いて集めた証言をもとにわかった事実を報告しました。この橋脚建設に二百人の朝鮮人労働者(徴用)が従事し、工事で八名の朝鮮人が亡くなっています。茨城県海軍高松飛行場工事後、後東武熊谷線工事に連れて来られました。二十五基の橋脚は昭和五十四年撤去されましたが、大泉町の土手の外側に一基残されています。

今年には関東大震災朝鮮人虐殺事件から百年経ちます。熊谷でも東京から中仙道を歩いて避難していた朝鮮人が、流言飛語を信じた住民によって約六十六人殺されています。昭和十三年大原墓地に供養塔が建立されました。なぜ事件から十五年後なのか。当時の新井良作市長と筑波在任の洗濯屋を営んでいた在日朝鮮人に関係があります。ちょうどこの年、日本に併合された朝鮮に志願兵制度が布かれ、日本陸海軍に朝鮮人青少年が入隊したことも関係あると思います。関東大震災時、町の助役であった新井氏は町の人達が誰も手を貸してくれない中、自ら町中にあつた遺体を集めて共同墓地に埋葬し、後に市長になると、有志に寄付を募り供養塔を建てました。それ以前は木製の墓標が、かの洗濯屋さんの手で建てられました。彼の尽力もあり、供養塔は当時の戦争に向かう世相の中でなんとしても建てたいという二人の願いでできたものだと思います。

私がなぜ朝鮮人、加害にこだわるのか。それは残る加害の歴史、日本の戦争などの遺跡を見つめ直し、加害の視点を持ちたいからです。日本の平和教育は被害の側面から語られる機会が多く、それは大事なのですが、朝鮮を明治四十三年植民地にし、文化、土地、母国語、名前、農水産物や鉱産物などの資源を奪い、侵略戦争のために彼らを日本に強制連行強制労働させ、アジアに侵略した加害の視点から見ると戦争遺跡の持つ意味が出てくると思います。負の遺産ですが、日本人としてそこにながらあったのを知りなかに、過去と現在のつながりや平和について考える手掛かりになるのではないかと



(大原墓地供養塔)

と思います。被害を受けた近隣国の国民とも真の信頼・友好・平和が可能かと思えます。戦争には被害者もいれば必ず加害者もいます。加害の視点を持つことは、戦争について新しい視座を持つことになると思っています。

自身が代表を務める東アジアの平和を考える市民の会主催で昨年十一月五日「抗い 記録作家林えいだい」の上映会を行いました。戦前の朝鮮人強制連行・強制労働を歩いて記録した彼の生涯を追ったドキュメンタリー映画です。炭鉱から逃亡した朝鮮人を匿ったために憲兵の拷問で亡くなった父の姿が活動の原点、自分は非国民・国賊の子どもと言います。

時の権力者は自分の都合のよいように歴史を書き換える、それを許さないために弱い立場の者から歴史を見て記録していくのが彼の生き方です。

私が地元の戦前加害の歴史に関心を持ち調査するようになったのは、故林氏のほかに関東大震災時熊谷住民に虐殺された朝鮮人犠牲者の慰霊祭を昭和三十二年から亡くなる平成二年まで仏教会の協力を得てひとりで行っていた故矢野泰助氏、関東大震災朝鮮人虐殺や朝鮮人強制連行を調べていた県立熊谷女子高校教員故石

田貞氏との出会いがあります。中でも忘れられない先人の方が、「暮らしのなから考える埼玉と朝鮮」の出版に誘っていただいた県立浦和工業高校教員の故鈴木淳氏です。この本出版後、五十半ば癌で平成五年亡くなりました。このような先人の方々の思いを自分なりに引き継いでいければと考えています。

◆市民活動グループ紹介◆

「吉見町平和委員会」

鳥居映太



(吉見町平和展示)

私たち吉見町平和委員会は埼玉県比企郡の吉見町を中心に活動している組織で、平和を訴える宣伝活動や、各種行事に取り組んでいます。現在10名が在籍、今年37歳の新会長にバトンタッチしました。
2022年は7月に国民平

和の大行進を主催しました。核兵器廃絶に向けて、日本が核兵器禁止条約に署名し、世界の先頭に立っていかねばとアピールしました。終戦の日である8月15日には「平和の鐘撞き」を開催し、第二次世界大戦での戦死者を追悼するとともに、平和を願いました。

また戦争体験を語り継ぐ活動にも力を入れています。地元戦争体験者の方から寄稿をいただいた冊子「私の八月十五日」を作成。毎年町役場が主催している「吉見町平和展示」に資料として提供し、展示させていただいています。

今年新たな資料の作成を目指し、熊谷空襲の被害について学習を進めてパネルの作成を目指しています。その折は熊谷空襲を忘れない市民の会様にもぜひともご協力をお願いします。

普段の活動報告はTwitterでも行っておりますので、ご興味があればぜひとも閲覧・フォローをお願いします。

@yosimi_heiwa



(平和の鐘撞き)

～ キャンパのお願い ～

熊谷空襲を忘れない市民の会では、広く活動費用を募るため口座を開設しました。ご協力のほどよろしくお願ひします。
なお、会計報告はこの紙面により行います。

ゆうちょ銀行

口座記号・記号: 00100-7-265321

加入者名: 熊谷空襲を忘れない市民の会

口座名称カナ: クマガヤクウシュウヨワスレナイ
シミンノカイ

他行からの振り込みの場合は

店名(店番): 〇一九店 (019)

預金種目: 当座

口座番号: 0265321

会計報告 (2023/1/16~3/21)

収入: 21,562 円

支出: 32,427 円

残高: 67,283 円

編集委員 吉田庄一、小川美穂子、米田主美

連絡先 吉田庄一 (090-4957-9181)

メール imajn241@gmail.com

HP <http://www.peace-kumagaya.org/>



追悼 大江健三郎さん 坂本龍一さん



三月三日に大江健三郎さん、三月二十八日に坂本龍一さんが亡くなった。小説家に音楽家という専門分野で大きな仕事をした二人だが、社会から乖離することなく発言し、そして行動し続けた。考えてみると私は、彼らが道しるべとなり、ここまで生きて来られたといっても過言ではない。いろいろな局面で勇気づけられてきたのだ。高校時代、現国の先生が教科書を捨てた。生徒の投票で一位が太宰治、二位が大江健三郎だった。授業は太宰だったが、私は大江の初期作品を読みふけた。爾来最後の作品まで読み続けることで救われてきたのだと思う。「晩年様式集」の最後に詩が載っている。「否定性の確立とは／なまなかの希望に対してはもとより／いかなる絶望にも／同調せぬことだ：・彼の境地だろう。最後の関門を飛び越えるとき、自身をリジョイスと励ましたのだろうか(彼はそのように言っていた)。私にとって坂本はYMOだ。その後の戦場のメリークリスマスには衝撃を受けた。映画にも音楽にも。このところ彼のピアノ曲を繰り返し聴いている。リクイエムのように。脱原発の集会で大江はとつとつとスピーチした。私たちは間違いない彼らにインスパイアされ励まされてきたのだ。ありがとう大江健三郎、坂本龍一。御冥福をお祈りする。
(吉田庄一)